

(様式1)

令和5・6・7年度「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」
学校改善プラン(1年次)【小学校】

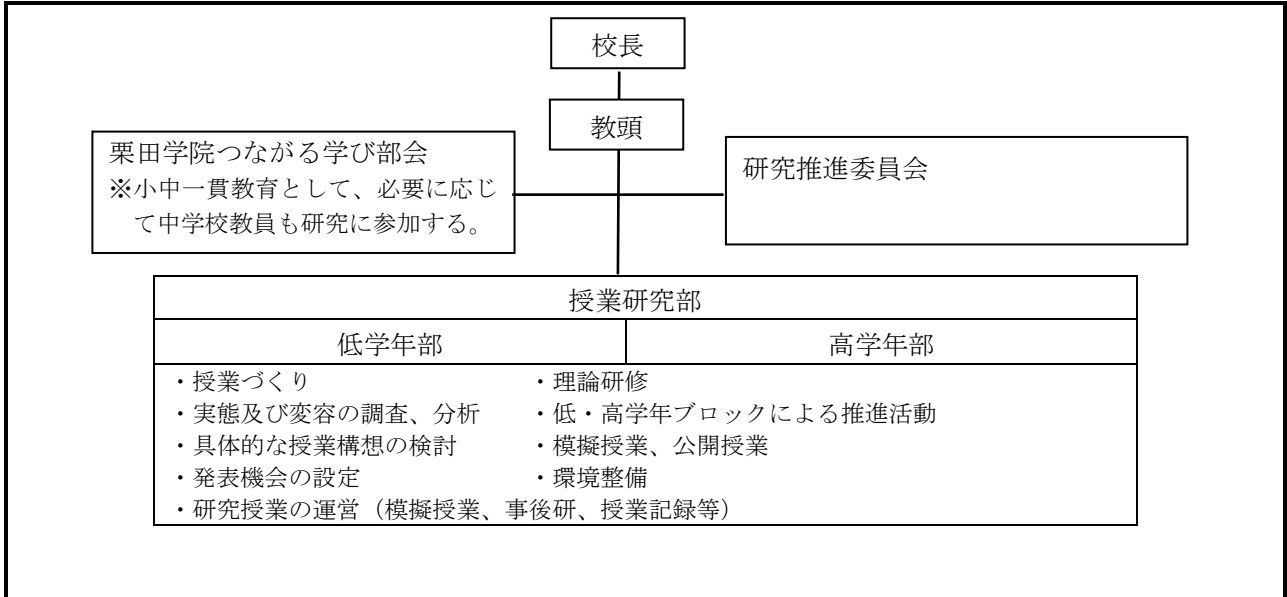
【学校名等】

| 学校名 | 宮津市立栗田小学校 | | | | | | | 校長名 | 柴田 真樹 | |
|--------------------|--|----|----|----|----|----|------|-----|-----------|--|
| 学 年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 特別支援 | 児童数 | 68名(転入あり) | |
| 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | |
| 事業担当教員名 | 濱村 宗 | | | | | | | | | |
| ① 中学校区で目指す子ども像 | 栗田学院(小中一貫校) 目指す子ども像 (1) 夢の実現に向け自ら学ぶ子ども (2) お互いが認め合える心豊かな子ども (3) 健康で元気に生活できる子ども (4) ふるさを誇り地域に貢献できる子ども | | | | | | | | | |
| ② 目指す子ども像 | ・学ぶことに興味や関心をもち、自分なりのめあてを立て、自分の学習活動を振り返って次につなげる力(主体的に学び考える力) ・各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら知識を相互に関連付けてより深く理解したり、考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたりする力(新たな価値を生み出す深い学び) | | | | | | | | | |
| ③ 目指す子ども像に対する現状と課題 | <p>本校の子どもは素直で明るくのびのびと学校生活を楽しみ、学習に励んでいる。しかし、自信をもって自分の考えを話すことや相手の意見と比較しながら思考すること、自ら考えて行動することが、苦手な子どもがいる。教師の指示を待っている子どもが多く、友だちや大人の様子を気にしてしまい、自分の思いを出し切れない子どもが多い。ただ、指示されたことはしっかりやり切れる強みがある。</p> <p>このような子どもの実態を受けて、主体的に学習する力、様々なことに挑戦する力を育てていくために、小中一貫教育のより効果的な学習指導を実践していく。子どもに生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを自らの生き方や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」を確実に身に付けさせていくためには、単に知識を記憶する学びにとどまらず、身に付けた資質・能力が様々な課題の解決に活かせることを実感できるよう学びを深めることが重要となる。</p> <p>そこで、本校としては、子どもが主体的・意欲的に学ぶことができれば、学力の向上に繋がると考え、授業の工夫・改善に取り組んできた。令和3年度からは、子どもの課題に焦点を当て、「主体性・挑戦意欲」をテーマに、「ねらいを明確にした対話」や「深い学びの見える振り返り」をねらった実践の研究やICT機器を活用した授業改善の研究をする中で、より主体的に学習に向かう子どもの姿が見られ、学習アンケートからも意欲の高まりが検証された。しかし、自分にとっての課題を見付け、それに見合った学習内容や方法を計画するという、自らの学習を調整するという点で課題が見られた。</p> <p>今年度も、「主体性・挑戦意欲」をテーマに、子どもが自ら学び取る授業を目指した授業改善を行い、子どもの主体性を育み、学力向上を目指す。そのために、子どもが単元の見通しをもち、自ら学びのめあてや計画を立て、学習後に振り返るといふ、子ども主体の授業を行うことで、子どもの認知能力・非認知能力を一体的に育成できると考える。一人一人が主体的に学び取る授業を行うことによって、子どもが自ら問題を見出し、解決策を考える力を付けていきたい。</p> | | | | | | | | | |
| ④ 目指す子ども像に達するための仮説 | 子どもが単元の見通しをもち、自ら学びの構想を立てることで、主体性を高めることができ、学力向上につながる。 | | | | | | | | | |

【1 研究主題】

主体性・挑戦意欲の高まる指導の研究
～子どもが学び取る授業づくりを目指して～

【2 研究組織体制】



【3 具体的な取組内容】

子どもが学び取る授業の実践・研究

- ア 低・高学年部での事前研を受けて、全体事前研で本時のねらいや研究主題に沿った参観の視点等を共通理解し、模擬授業・授業研究・事後研につなぐ。
- イ 子どもが自ら問題を見つけ、その問題を自ら解決する力を付けるために、課題解決型の学習方法や反転学習、調べ学習等を取り入れる。
- ウ 自分の学習を調整する力を付けるために、自由進度学習等を取り入れる。
- エ 子どもが学習の見通しをもつために、子ども自らがめあてを立てたり、学習を振り返ったりする。

【4 仮説及び成果を検証するための質問項目】

| 学年 | 質問番号 | 質問項目 | 概念 | 備考 |
|----|-------|---|--------------|----|
| | 46 | まわりが反対しても、自分ができると思ったらやってみる。 | 目標に向けて取り組む姿勢 | |
| | 73 | 授業で新しく学習したことをこれまで学習したものと結びつけて理解したり、話合いで活かしたりしている。 | 精緻化 | |
| | 74 | ほかの教科の授業で学んだことであっても、教科に関係なく授業中の活動で活かしている。 | 精緻化 | |
| | 79、85 | 国語（算数）の授業では、自分の思いや考えをもとに答えを見つけ出すような課題に取り組む機会がある。 | 主対深 | |
| | 80、86 | 国語（算数）の授業では、授業の最後に自分自身の学習内容を振り返り、学習目標（学習のめあて）が達成できたかどうかを考える機会がある。 | 主対深 | |

* 5・6の分析の項目は削除しています。

【7 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的な手立て】

＜教師の指導力向上に向けた具体的な手立て＞

○子どもが目指したい自分像の共有

- ・「非認知能力」とは何か
 - ・付けたい非認知能力について
- } K J法にて交流、分類化
(最後までやり抜く力、チャレンジ、相手意識・思いやり)

- ・中学校卒業時の子どもが目指す自分像の共有
⇒小学校各学年終了時の子どもが目指す自分像の共有

○目指す教師像の共有と定期的な振り返り

- ・「子どもが目指す自分像」⇒各教員の「目指す教師像」の共有
- ・毎週末の終礼で、実践の振り返りと次の目標設定を交流

＜個に応じた具体的な指導・支援方法＞

○各学力調査等の結果分析による認知能力の実態把握と個々に応じた支援

- ・6年：全国学力・学習状況調査
- ・4～6年：京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート
- ・2・3・5年：総合学力調査

○学びのパスポートの結果分析を踏まえた支援

- ・学力は高いが「主体的・対話的で深い学び」が低い子ども
探究活動を通して学ぶ楽しさを実感できる授業
自ら課題を設定し、学ぶ意義を実感できる授業
- ・非認知能力は高いが学力が低い子ども
学習方法の確立（明確なゴールを提示し、計画表を基に学習・振り返りを行い、自己肯定感の向上を図る。）
- ・現在値より少し高い目標の設定
乗り越えて自信をもてるようにする→今の子どもの状況の分析、把握

○学びのパスポート「振り返りシート」記入後の2者面談内容を受けた支援

- ・子どもの頑張りたい内容や学習方略の把握→それに見合った展開を計画
- ・普段の個々の子どもの見取りに応じた適切な言葉かけ、評価→やる気の持続
- ・個々の子どもの得意教科を把握→得意を伸長できる指導

＜集団としての具体的な指導・支援方法＞

○子どもが主体的に学び取るための支援

- ・子ども自身が学習の仕方を自己選択・自己決定
→教師は選択できる内容を精選、準備する。
- ・本時の学習内容の把握→学び取るためのめあて作り→めあてに対しての振り返り
→めあてや振り返りを書くための視点を与える。
→めあてや振り返りを交流する中での評価、質の向上を図る。

○学習意欲を高めるための環境整備

- ・自分たちでできたと思えるようなしかけ作り
(子どもたちの相互評価や教師からのその場での的確な助言、評価)
- ・意図的・効果的なペア活動、グループ活動（話し合い活動の楽しさ、折り合いを付けること）
- ・スタートラインをそろえられるような導入、スモールステップでの課題解決
(できそうもないと予想して意欲が下がらないようにするため)

○心理的安全性が保たれる集団づくり

- ・失敗が許され、お互いが認め合え、高め合える学級づくり
- ・自己有用感の高まる学級づくり

【8 仮説の修正】

○子どもが単元の見通しをもち、自ら学びの構想を立てることで、主体性を高めることができ、学力向上につながる。

そのために

- 認知能力と非認知能力の育成の場面を明確にした授業づくり
(意図的に子どもが考える環境を設定→主体性の向上)
- ・授業の中で新しい学びに気付く場面の設定 (気付きギミック)
- ・課題にチャレンジする場面の設定 (チャレンジギミック)

【9 具体的な取組内容の修正】

子どもが学び取る授業の実践・研究

- ア 低・高学年部での事前研を受けて、本時のねらい (認知能力と非認知能力の育成の場面を明確化) や研究主題に沿った参観の視点等を共通理解し、授業研究・事後研につなぐ。
- イ 研究の方向性を共通理解するため、授業研究で個々の変容を見取り、本時のねらいについて協議することで教師の見取り方を共有する。
- ウ 子どもが自ら課題を見つけ、その課題を自ら解決する力を付けるために、課題解決型の学習方法や調べ学習等を取り入れる。その手立てとして、反転学習や家庭学習の内容を工夫する。
- エ 自分の学習を振り返り、調整する力を付けるために、自分で学習方法や学習量を変更したり調整したりできる授業展開 (自由進度学習等) を取り入れる。
- オ 子どもが学習の見通しをもつために、子ども自らがめあてを立て、本時の認知能力や非認知能力の成長に気付く振り返りや次の学習につながる振り返りを目指す。

【10 子どもの変容 (普段の様子から)】

※【7 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的な手立て】で計画した指導・支援を行った結果、子どもにどのような変容が見られたかを記載してください。

- 子どもが学びのパスポートの結果を見て、その内容を振り返りシートに記入することで、自分自身の課題に気付くことができ、その改善方法についても考えた。学び方を自己選択し、その方法で学習を進められるような授業づくりを全教員で研修し、その結果、子どもは自分に合った学び方を見つけることができている。2学期以降、課題克服に向けての学習意識向上が図れた。
- 振り返りシートを記入することで、課題だけでなく、自分の長所や得意分野に気付き、そこを伸ばすこともできた。
- めあてを自分で立て、その日の学びの成果 (自分の力の伸び) に対して、振り返ることができるようになってきた。自分のことを客観的に評価できる力 (メタ認知能力) が付いてきた。

【11 2年次の研究構想】

- 子どもが自ら学び取る授業づくりの研究の継続
 - ・子どもの意思決定できる場の設定を大切にした授業づくりを継続する。
 - ・単元を通じた学習の見通しを子どもがもち、自らがめあてを立て、学習を振り返る。
 - ・子どもが考える環境づくりを意図的に仕かける。(気付きギミック、チャレンジギミック)
 - ・自己調整力を育成するための授業を仕組む。(反転学習、自由進度学習等)
- 個別の振り返りシートの記述内容を担任と子どもが共有
 - ・子どもが重視している内容を把握し、主体的に学べるように担任が支援する。